

## 2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	心理測定法Ⅱ	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	
担 当 教 員	春名 帝亮				
実務経験と その関連資格	特別養護老人ホームにて、臨床心理士として心理検査やカウンセリングの業務を中心に3年間勤務した。 また、大学病院の医局研究員として、心理統計・解析の業務に3年従事している。 並行して、心療内科・精神科のクリニックにてカウンセリングや心理検査の業務を中心に1年以上勤務している。 臨床心理士資格所持。日本心理臨床学会、日本基礎心理学会に所属。				
《授業科目における学習内容》					
「こころ」という目に見えない対象を捉えるために、これまで科学的検証が可能になるように様々な心理測定法が考案されています。この講義では、心理学統計・測定法に関する基礎的な内容を取り扱います。前期(心理学測定法Ⅰ)と後期(心理学測定法Ⅱ)を合わせて履修してもらうことで、国家試験問題に対応できる知識の習得を目指します。					
《成績評価の方法と基準》					
定期試験100% 状況により定期試験を期末レポートに変更する可能性があります。					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
山田弘幸(編)『言語聴覚士のための心理学』医歯薬出版株式会社、南風原朝和(著)『心理統計学の基礎』有斐閣アルマ					
《授業外における学習方法》					
毎回の講義をまとめておくこと					
《履修に当たっての留意点》					
講義の内容をただ暗記するのではなく、見えない「もの」をいかに科学的検証が可能な形で捉えるのか、そのためにどのような理論や課題が積み上げられてきたのかの理解を目指してください。全体のイメージが掴めれば、心理学測定法が身近に感じることができると思います。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を 通じての 到達目標	前期の心理学測定法を復習する。	教科書・資料	心理学測定法Ⅰ資料 「言語聴覚士のための心理学」 pp94-116	
	各コマに おける 授業予定	オリエンテーション:心理学測定法Ⅰの復習			
第2回	授業を 通じての 到達目標	データの見方について理解する	教科書・資料	「言語聴覚士のための心理学」 pp106-109	
	各コマに おける 授業予定	テスト理論:代表値、データの関係、検査の種類			
第3回	授業を 通じての 到達目標	尺度構成法について理解する	教科書・資料	「言語聴覚士のための心理学」 pp110-113	
	各コマに おける 授業予定	尺度構成法:尺度構成法、多次元尺度構成法			
第4回	授業を 通じての 到達目標	調査法について理解する。	教科書・資料	各自、心理学統計の基礎用語、 仮説検定について調べておく	
	各コマに おける 授業予定	分布の性質:調査法、質問紙法、サンプリング・標本抽出			
第5回	授業を 通じての 到達目標	データ解析法を理解する。	教科書・資料	各自、心理学統計の基礎用語、 仮説検定について調べておく	
	各コマに おける 授業予定	検定:t検定、分散分析			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	多変量解析を理解する。	教科書・資料	「言語聴覚士のための心理学」pp117-121
	各コマにおける授業予定	多変量解析:回帰分析、因子分析		
第7回	授業を通じての到達目標	多変量解析を理解する。	教科書・資料	「言語聴覚士のための心理学」pp117-121
	各コマにおける授業予定	多変量解析:パス解析、構造方程式モデリング		
第8回	授業を通じての到達目標	全ての講義を振り返る	教科書・資料	小テストに向けて第1回～第7回までの範囲の復習
	各コマにおける授業予定	小テスト:第1回～第7回の復習		
第9回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第10回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第11回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第12回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第13回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第14回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			
第15回	授業を通じての到達目標			
	各コマにおける授業予定			